

岡原子力委員会委員長の海外出張報告

平成29年9月26日

1. 出張先

オーストリア共和国（ウィーン）

2. 出張期間

平成29年9月16日（土）～20日（水）

3. 渡航目的

ウィーンで開催される第61回国際原子力機関（IAEA）総会に出席し、IAEAの幹部等原子力関係者との意見交換を行う。

4. 主要日程

9月16日（土）東京発 → ウィーン着

17日（日）～18日（月）

IAEA総会出席及び各国原子力部門要人との会談

19日（火）ウィーン発

20日（水）東京着

5. IAEA総会の演説

（1）天野事務局長

事務局長になって以来、IAEAが具体的な成果を出す国際組織であることに注力してきた。IAEAはイランの核問題に関するJCPOAの履行の検証と監視をつづけており、イランは今や世界で最もロバストな核検証方式のもとにある。

北朝鮮の核は深刻な問題である。9月3日に行われたこれまでに最大規模の核実験は特に残念である。国連安全保障理事会とIAEAの決議の義務履行を強く求める。

IAEAの技術協力プログラムは原子力技術を途上国に移転するのに役立っている。IAEAのサイバースドルフ研究所の改修が進んでいる。

原子力は温暖化ガス放出低減とエネルギーセキュリティに貢献する。IAEAは原子力導入国を支援する。安全とセキュリティは原子力技術の利用にとって特に重要である。これは各国の責任であるが、IAEAは効果的な国際協力において中心的な役割を果たす。

福島第一原発の教訓は今やすべてのIAEA安全要求に組み込まれ、世界的な安全確保を確実なものとした。安全文化が引き続き強化されねばならない。

(2) イラン

原子力平和利用の枠組みの中でイランは原子力発電と健康や農業への平和利用の両方で人材を育成しそのインフラと技術を発展させる。

ブシェール原子力発電所1号機をイランのエネルギーミックスの中で活用する。2号機3号機の建設も温暖化ガス削減に貢献するため進んでいる。さらに放射性医薬品を生産し周辺国に輸出している。がんの撲滅に対するIAEAの技術協力に感謝している。

JCPOA（包括的合意）の実施についてはIAEAの定期的レポートで述べられているようにイランは誠意をもってこれを履行している。今後もIAEAの役割に期待する。

(3) 米国

米国はペリーエネルギー省長官が登壇し、まずトランプ大統領の第61回IAEA総会参加者へのあいさつを紹介した。

「核セキュリティのガイドラインの確立、核物質の紛失と盗取、核テロの根絶に向けて米国はIAEAと密接に協力する。IAEAは世界の原子力計画をモニターする必須の役割を果たしている。イランの核合意のすべての要素の検証におけるIAEAの役割を強く奨励する。米国はいかなる妥協も不適切なモニタリングも許さない。北朝鮮核問題について国連がすべての手段を考慮し続けている。IAEAの監視団が北朝鮮に戻って役割を果たせるようになることを期待する。IAEA加盟国は核脅威のない安全な世界、原子力技術の平和利用に向けて共働することが出来る」

保障措置は核不拡散の基本要素であり平和利用にとって必須である。北朝鮮とシリアの問題は重大である。シリアは過去の秘密の原子炉建設について説明せねばならない。北朝鮮の核問題に対応するにはIAEAの権威を強化することが必須である。包括的保障措置協定は国際的に事実上の標準である。そのためには国際協調が必要である。

原子力エネルギーの平和利用にとって安全は必須である。原子力安全は規制など法的枠組みによって強化されている。

原子力エネルギーは高給与の仕事を供給しており、米国の原子力産業は技術と安全において世界のリーダーである。原子力の国民理解を増進し、国際協力を進めるために、CSCのような共通の法的枠組みに我々は合意する必要がある。

(4) 日本

日本は松山政司大臣が演説した、天野事務局長の再任をお祝い申し上げるとともに、その取組を高く評価し、全加盟国に引き続き支援を呼びかける。北朝鮮の核実験は許されざる暴挙であり、国際社会とともに北朝鮮に対し最大限の圧力をかけ、安保理決議の厳格かつ全面的な履行等、国際社会での不拡散分野での対応の重要性を強調する。

原子力利用の長期的方向性を示す「基本的考え方」を策定し、白書も再開した。引き続き安全性の確認された原子力発電所の再稼働を進める方針である。日本は「利用目的のないプルトニウムは保有しない」との原則を堅持しつつ、世界最高の透明性を持つ核燃料サイクルを推進する。福島第一原発の廃炉・汚染水対策を着実に進めている。日本産食品について科学的根拠にもとづいた輸入政策の実施を呼びかける。IAEA保障措置は核不拡散のための最重要手段であり、その強化・効率化に向けた取り組みを支持する。

(5) ロシア

ロシアは原子力平和利用における重要な国際機関であるIAEAを支援する。IAEAが政治的でなく、専門的役割を果たすことが特に重要である。

ロシアはIAEAと原子力エネルギーインフラと安全規制のインフラを作る共同プロジェクトを開始している。

ノボボロネジ原子力発電所2号機が運転開始した。これは世界で最初の第3世代+の軽水炉である。さらに5基をロシアで建設中である。

クダンクラム2号機はインド政府に引渡され、3、4号機の建設が進んでいる。ロシアの設計による発電所がベラルーシと中国で建設中である。トルコ、ハンガリー、フィンランド、イラン、バングラディッシュで建設に向けた準備が進んでいる。

世界は2つの課題に直面している。1つはエネルギー貧困と電力アクセスの不平等である。2つ目は、地球規模での生態系の破壊の脅威である。世界のエネルギー生産のバランスを変えることがこの問題の唯一の解決法である。現在の世界の原子力発電設備容量は392GWで、これがもし石炭と天然ガス発電で行われたら約20億トンの炭酸ガス放出増加になる。

これは地球上の森による炭酸ガス吸収量の約25億トンに近く、原子力発電は地球上の全ての森林に匹敵する役割を果たしている。

6. IAEA総会参加の各国要人との会談

松山政司大臣のペリー米国エネルギー庁長官、フランスのヴェルベールド原子力庁長官、天野 IAEA 事務局長とのバイ会談に出席した。

会合では核不拡散問題や日本の原子力政策と利用の状況について説明し、各国の取り組みについて説明を受け、意見交換が行われた。

以 上